

補足討論 国際政治経済学と国際価値論

2016.7.2 塩沢由典

(1)国際政治経済学

内部の多様性を無視して、大きく捉えると

経済学+政治学

現状は、経済問題についての政治学か？

このような現状は、なぜ生じたか。 経済学の側からの事情。

(2)国際経済学

ミクロ+マクロ じつは国際貿易理論+国際金融論

国際貿易論 リカード以来の伝統？

リカード>J.S.ミル>HOS 理論>重力理論、新(新々)貿易理論

リカードの「4つの数字」の解釈 (田淵、Faccarello)

基本的に貿易摩擦がないとする理論

貿易により要素価格が変化することは認める。Stolper-Samuelson の定理

しかし、失業や産業衰退の問題はあつかわない。

国際政治経済学の現状: 政治学 紛争の科学>>貿易摩擦の存在から出発

経済学 貿易摩擦の存在否定、無視

(3)国際価値論

特徴: ①古典派価値論(リカードの生産費価値説) 価格と数量とは第一義的に独立

②一般均衡理論に匹敵する一般性、中間財貿易の明示的な理論化

可能性 失業の必然性も分析課題

(4)国際政治経済学の新しい課題

貿易摩擦と貿易の利益との調整 (経済学と政治学とが必要)

Shiozawa (2016) § 17. International Political Economy

文献送付 塩沢由典 y@shiozawa.net (文献送付、RG 紹介)

参考文献

塩沢由典(2014)『リカード貿易問題の最終解決』

田淵太一(2006)『貿易・貨幣・権力』

Faccarello (2015) Comparative Advantage

Shiozawa (2016) New Theory of International Values: A General Introduction